

中央社保協ニュース

17-14号 発行・2018年5月18日 中央社会保障推進協議会

中央社保協などの署名提出、議員要請行動に178名 介護署名10万290筆、25条署名26万9289筆

5月17日、中央社保協、全労連ヘルパーネット、全日本民医連、東京・千葉県など首都圏社保協が共催して「署名提出国会行動」を行い、全国から署名を持って178人が参加しました。開会あいさつで中央社保協代表委員・全労連副議長の岩橋さんは、「はたらき方改革」や「TPP11」をめぐる国会情勢を報告し「署名・宣伝行動への街頭の反応は日増しに良くなっている。どんなに恐ろしいことがされようとしているのか真実を伝え、6月20日の会期末に向け、最後まで力を尽くそう」と訴えました。

駆けつけた日本共産党の宮本岳志衆院議員、武田良介参院議員、国民民主党の下條みつ衆院議員に、介護署名10万290人分と社会保障署名26万9289人分を提出しました。介護署名は3月提出分を合わせ、271,430人分となりました。

下条議員(国民)、宮本・武田議員(共産)が署名を受け取る

武田良介衆院議員は「個人の尊厳を侵す安倍暴走政治にストップを」と訴え、下條みつ衆院議員は「税金が庶民の暮らしと隔たったところに使われている。



誰のための政治か！そんなに戦争がしたければ安倍さんが行けばよい。これだけ捏造していたら憲法改定など何をされるかわからない」と訴えました。宮本岳志衆院議員は、「社会保障の課題でも国民民主党の議員が来てくれて、野党共闘は大変心強い。野党は共闘して、福田前財務次官、麻生財務大臣の辞任と、柳瀬元首相秘書官の証人喚問、財務省の文書の全

面開示を求めてきた。財務省の文書は18日に出すと言っていたのに25日まで出さないと言ってきた。とにかく早く出させて国民の疑念に答えることが重要だ」と強調しました。3議員はそろって署名を受け取りました。倉林明子参院議員(共産)、山下芳生参院議員(共産)、柚木道義衆院議員(国民民主)は公務

で参加できず秘書の方が参加、その後長谷川嘉一衆議院議委員（立憲民主）、白石洋一衆議院議員（国民民主）から「紹介議員賛同」の返事がありました。

署名提出後に中央社保協山田代表委員が「民医連手遅れ死亡事例」について報告、参加者を代表して千葉県社保協、東京社保協、全労連介護・ヘルパーネットから現場の実態を報告、その後国会議員要請行動を行いました。北海道・神奈川県・長野県・三重県・宮城県・愛知県社保協などは地元選出国會議員へ署名の紹介議員のお願いと現場の実態を訴えました。

野党議員に直接面談で訴える要請行動に！

報告集会では、立憲民主党の阿部知子議員室では「秘書対応だったが、訪問介護の回数制限について反対の姿勢

を明確に。厚労委員ではないが、党内で輪を広げていく」、国民民主党の下条みつ議員は議員本人と懇談。現場の実態や政治の話で「今の政治をかえなくてはならない」と熱弁、国民民主党の桜井議員も秘書対応でしたが、「政局にかかわらず必要なことをおこなう」と「共産党の宮本議員は「共にがんばろう！」と激励」など、参加者が次々発言。野党共闘の広がりを感じました。



最後に中央社保協の山口一秀事務局長が「安倍暴走政治が加速している。各分野・地域の運動と共に25条署名『社会保障は国の責任で』の運動を大きく広げよう。秋には医療、介護、保育、年金など次々に集会が予定されているが、『社会保障・社会福祉は国の責任で！憲法25条守れ！』の大きな行動を提起したい。全国で立ち上がろう」と行動提起を行い、参加者は拍手で確認しました。

社会保障・社会福祉は国の責任で！

共同行動実行委員会主催で学習・懇談会を開催、100名が参加

社会保障は国の責任で！
社会保障・社会福祉は国の責任で！



国会議員要請行動終了後、同じ会場で「社会保障・社会福祉は国の責任で！」共同行動実行委員会主催で学習・懇談会を開催しました。本田宏さんの開会あいさつ後「憲法25条を守り、活かそう！」と井上英夫金沢大学名誉教授が講演後、秋に向けた共同行動の規模

や内容などについて懇談会を行いました。懇談会には約100人が参加し、それぞれの思いを語りました。最後に、澤村福祉保育労書記長が「①国会包囲も含めたこれまでにない共同行動を連帯して取り組む、②地域レベルでの共同を

広げる」を確認事項として提起し、それに向けての実行委員会を発足させることを確認して終了しました。

巣鴨駅前での宣伝行動にのべ74名

家計の負担が大きいもの 第1位は医療費

中央社保協は、5月14日(月)JR 巣鴨駅前にて2時間の署名宣伝行動を行ないました。4日のつく日は「巣鴨地蔵通りの縁日」で、沢山のお年寄りの皆さんが駅前を歩き交う日です。



前半[11時～12時]の介護署名宣伝行動には、全労連ヘルパーネットに結集する全国な仲間も駆けつけ、総勢30人(医労連18、福保労1、社保協4、全労連3、自治労連2、民医連2)が参加しました。現場で働くヘルパーの皆さんからは、「職員が不足していて、介護施設での夜勤は危険が伴う事態にもなっている」「利用料の負担が重く必要なサービスが受けられていない」ことなど切実な様子が訴えられ、署名をしながら話し込む姿が印象的でした。1時間の行動で何と署名107筆！が寄せられました。

後半12時～13時は、「国の責任で社会保障制度の拡充を求める請願」署名の宣伝行動を行ない、44人(医労連5、中央社保協4、東京社保協24(内東京土建17)、民医連2、年金者組合4、全労連3、自治労連2)が参加し、59筆が集まりました。特に、医労連・自治労連の若者がアピールした「暮らし・家計アンケート」は目引き、多くの方が近づいてきて延べ

104票のシール投票を行ってくれました。「家計の負担が大きいものは？」1位医療費、2位食費、3位保険料、4位介護費用、5位税金などとなりました。2900円位だった介護保険料が5千円～6千円に上がっていることへの怒りや、「生活は苦しくないという人」も実は「とにかく赤字にならないように、そのなかでやるしかない」とあきらめている声も出されました。



当日は、血圧測定に11人、介護相談に1人がこられました。署名付きティッシュを約4000個配布しました。